

令和4年第7回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

1 開会及び閉会に関する事項

令和4年7月21日 午後3時開会
午後3時51分閉会

2 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

教育長 半嶺 満 委 員 藏根 美智子 委 員 小濱 守安
委 員 比嘉 佳代 委 員 大城 進

(2) 欠席委員

委 員 山里 清

3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

| | | | |
|------------------|--------|---------|--------|
| 教育管理統括監 | 佐次田 薫 | 教育指導統括監 | 玉城 学 |
| 参 事 | 山田 みさよ | 参 事 | 目取真 康司 |
| 総務課長 | 諸見 友重 | 教育支援課長 | 大城 勇人 |
| 施設課長 | 平良 長弘 | 学校人事課長 | 安里 克也 |
| 義務教育課長 | 宮城 肇 | 保健体育課長 | 城間 敏生 |
| 生涯学習振興課長 | 大宜味 勝美 | 文化財課長 | 瑞慶覧 勝利 |
| 県立学校教育課 副 参 事 | 屋宜 宣安 | | |

4 議事関係

山里委員の欠席について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める教育委員会会議開催の定足数は、教育長及び在任委員の過半数であり、本日の会議は6人中5人が出席しているため開催要件を満たしていることが報告された。

(1) 開会

半嶺教育長が開会を宣告した。

開会后、令和4年7月15日付けで委員に就任した大城進委員が就任挨拶を行った。

【大城委員就任挨拶】

本日午前、玉城知事より教育委員の辞令を賜りました。委員として就任しましたことに、改めてその使命と責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いをいたしております。

ご承知のとおり、今社会が大きく変化する状況にあり、教育においても社会の変化に対応する人材を育成するため諸改革が進められています。

実際、様々な改革の取組が行われていますが、私は県民が夢や希望のもてる社会を築いて

いく鍵はこれからも教育において他にないと確信をしております。なぜなら将来、地域や社会を築き発展させていくのは人であり、その人を育成するのはまさに教育だからです。どのように社会を築いていくかは、私達大人が子ども達をどのように教育するかにかかっていると言っても過言ではないと思っています。

教育委員として教育庁各課のお力添えをいただきながら、子ども達の人材育成に向けて半嶺満教育長をしっかりと支えて参る所存であります。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 議事日程の決定

議事日程は会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

(3) 議事録署名人の指名

半嶺教育長が、藏根委員を議事録署名人に指名した。

(4) 報告事項

報告事項 1 令和5年度沖縄県立高等学校入学定員について

【説明（県立学校教育課長）】

資料に基づき、令和5年度沖縄県立高等学校入学定員について報告を行った。

【質疑等】

○ 藏根委員 募集区分として1 全日制課程及び定時制課程、2 通信制課程、3 専攻科（全日制）とあり、生徒は増えるが空き定員が生じるという説明の中で広域通信制が出てきました。今年度は542名、昨年度は519名なので500名を見込むという説明でしたが、広域通信制で現在どのような学校があるのかと、泊高校と宜野湾高校の通信制の定員がそれぞれ250名と80名となっていますが昨年度の実績を教えてください。また、3 専攻科に関する具体的な説明もお願いします。

○ 屋宜県立学校教育課副参事 広域通信制に関しては、総務私学課が認可する沖縄県に本校があるのが4校、本校が県外にあるサテライト校は昨年度調査時点では15校ありました。現在は増えている可能性もありますが、沖縄県には20校近くあると認識しております。公立の通信制は泊高校と宜野湾高校の2校がありますが、泊高校は定員が250名、宜野湾高校が80名の計330名のうち毎年250名程度入学してくるという状況です。しかし、330名の定員の中でも直接中学生が入学してくる数以外に転編入もありますので、併せて250名程度になります。専攻科については沖縄水産高校に併設された水産科の専攻科があり、高校卒業者が入学する短大や専門学校のような扱いになります。入学資格は高校卒業かそれと同等のものと法律で決められており、漁業科、機関科、無線通信科となっております。漁業科と機関科は高校3年間で取れない高度な資格を取ることを目的として、主に2年間かけて3級海技士の資格を取ります。無線通信科は15名定員ですが、2年間かけて陸上無線技術士、海上無線通信士、総合無線通信士の資格を取るという教育課程になります。

- 蔵根委員 専攻科は短大や専門学校のような扱いと説明されていましたが、専攻科のその先の進路は大学進学が多いのでしょうか。
- 屋宜県立学校教育課副参事 専門学校と同じ扱いになりますので大学へ編入は可能ですが、現状は100%就職となっております。
- 蔵根委員 3級の専門的な資格が取れるということでとても期待されていると思います。今は教育が変わる多様な学びということで広域通信制もありますので、いろいろな可能性を高校生に推進して行ってほしいと思います。
- 大城委員 3点ほど質問させていただきたいと思います。まず1ページに関してですが、保護者や受験生が気になるのは今回の募集によってこれまで倍率が1倍に満たなかったものが1倍を超える可能性があるのかということ。わずかな倍率の差が受験生や保護者にとって不安材料になっているような反応があるのかどうかを教えてください。
- 屋宜県立学校教育課副参事 定員設定についてはこれまで倍率1倍を維持してきており、その中で保護者や受験生から不安だという反応は現時点ではありません。
- 大城委員 背景には国民的教育機関ということがあるので質問させていただきました。次は2ページ目について、入学定員の減に那覇工業と那覇商業が該当しております。今その概要説明がありましたが、その中で2点教えてください。1点目は機械科、商業科、会計科という学科名について時代の流れの中で新しい時代を反映する学科改編がありますが、これについても対応する余地があるのかお聞きします。2点目は那覇商業高校の会計科については次年度から商業科に統合されてなくなることになっております。既存の学科が存続するのであれば安心感がありますが、なくなることによって同校の卒業生に不安が出てくることも考えられますので、学校は同窓会等とも調整した結果としてこのような流れになっているという理解でよいか教えてください。
- 屋宜県立学校教育課副参事 1点目の学科名称の件についてですが、県立学校教育課は昨年度、Society5.0時代における専門高校の在り方というテーマで外部有識者を招いて会議を行いました。その会議の中で、新しい時代に沿った学習内容に取り組むためには起業や地域と連携して取り組む必要があると提言をいただきました。その上で県立学校教育課は次の施策である高度人材育成事業を今年度からスタートさせており、その中で学科の名称や改編についても学校は取り組んでいくものと考えております。また、学校が主体となりますので、県立学校教育課はしっかりとその支援をしていきたいと考えております。2点目の会計科が廃科になるということについては、昨年度県立学校教育課が学校に大規模校の解消について打診したところ、いい機会なので学科改編を行って魅力ある学校にするために1年間検討させてほしいとの考えが示され、その中で同窓会や職員とも話し合った結果として会計科を廃科にして商業科に統合するという案が示されました。これまで会計科で行っていた簿記を商業科の中で行っていくという類型を持った教育課程の工夫をされており、同窓会も含

めて学校とコンセンサスが取られていると認識しております。

- 大城委員 副参事の説明を聞いて安心しております。学科がなくなるということはとても不安なことであり、廃科決定前に類型やコースの中で会計科の一部が残されることが関係者に共有されることで指導する先生方の安心感にも繋がると思いますので、そのような丁寧かつ柔軟な対応がなされたと捉えてよいでしょうか。
- 屋宜県立学校教育課副参事 はい。
- 大城委員 最後になりますが、私は過去勤務校で建築科を減じて寂しく思った経験がありますので、個人的には浦添工業高校の建築科が新設されたことについて良い印象を持っております。そこでお聞きしたいのですが、建築科が新設されるということはそのようなニーズがあったということか説明して頂きたい。
- 屋宜県立学校教育課副参事 建築科の増については、県内の建築業界の人手不足に関して数年前から建築業協会の相談を受けておりました。専門高校の在り方として地域の人材育成という大きな役割があり、建築業協会も業界としてしっかりと人材を育成すると言っておりましたので、学校とも相談してこのような学科改編になっております。

報告事項2 令和5年度沖縄県立特別支援学校高等部（高支等・専攻科）入学定員について
【説明（県立学校教育課長）】

資料に基づき、令和5年度沖縄県立特別支援学校高等部（高支等・専攻科）入学定員について報告を行った。

【質疑等】

- 藏根委員 特別支援教育もさっきと同じ質問になりますが、専攻科の説明をもう少し詳しく教えて下さい。これは沖縄盲学校から短大への進学になるのでしょうか。
- 屋宜県立学校教育課副参事 おっしゃるとおり、そのような生徒が高度な資格を取るために進学していく学校でもありますし、普通高校を卒業し、あるいは途中で障害を持つことに至った方が入学する場合があります。
- 藏根委員 将来、あん摩や鍼の専門資格を身に付けることになるとは思いますが、ここを卒業後の進学もありますか。
- 屋宜県立学校教育課副参事 保健理療に関しては委員がおっしゃったとおりあん摩マッサージ指圧師の資格が取れますし、理療については鍼師、灸師、あん摩マッサージ指圧師の資格を取ることができ、資格取得率は100%でほとんどが就職すると聞いております。先ほどの高等学校の説明で出た沖縄水産高校の専攻科と同様に大学へ編入することは法律上可能となっておりますので、これから大学へ編入するケースが出

るかもしれません。

- 大城委員 8ページを中心に教えて下さい。学級数は13で変わらないということですが、これまでの応募者と定員の倍率はどのようになっているのでしょうか。なぜこのような質問をしているのかと言いますと、通常的高等学校においても全ての意志ある生徒の後期中等教育段階の学びを支援するとなっていますので、ましてや特別支援学校ではできる限りそこで学んでほしいという意図です。これまで通りの13学級を宣伝していますが、応募者がそこで学べるような倍率になっているかを教えて下さい。
- 屋宜県立学校教育課副参事 陽明高等支援学校、南風原高等支援学校、中部農林高等支援学校については倍率が1倍を超えております。その他の高等支援学校については1倍を切っており、特に1番規模の大きい沖縄高等特別支援学校については定員が1番大きいですが1倍を少し切っておりますが、現時点では適正規模であると認識しております。
- 大城委員 学級増を求めることや特別な要請等はないということでしょうか。
- 屋宜県立学校教育課副参事 今のところはそのような要請等はありません。

報告事項3 県指定無形文化財の追加認定について

【説明（文化財課長）】

資料に基づき、県指定無形文化財の追加認定について報告を行った。

【質疑等】

- 藏根委員 復帰50周年の中で人権教育や心豊かな生き方を進めていく上で、歴史教育を行って文化を伝えていくことはとても重要なことであり、そのモデルとなる生き方として県指定無形文化財保持者を指定するということは素晴らしいことだと思います。この指定についてですが、指定期間や県外在住者の指定の手続き等をもう少し詳しく教えて下さい。
- 文化財課長 指定の進め方については、まずは県教育委員会から関係団体へ情報収集を行って諮問案を作成します。その後文化財保護審議会へ諮問し、文化財保護審議会が専門部会へ調査を指示した後に専門部会が調査結果を答申案としてまとめます。それが文化財保護審議会に報告された後に保持者としての資質や適正等を総合的に審議して答申案としてまとめられ、文化財保護審議会会長から沖縄県教育委員会へ答申され、新たな保持者の追加認定という流れになっております。
- 藏根委員 子ども達に豊かさや生き方を伝えていくためにがんばって下さい。

報告事項4 史跡の追加指定について

【説明（文化財課長）】

資料に基づき、史跡の追加指定について報告を行った。

【質疑等】

- 小濱委員 これは貴重な史跡だと思います。13世紀から16世紀にかけてのことであり、グスク時代にかかる直前で歴史的によくわかっていないことが多く資料もないという時期になっています。また、野面積みから切石積みというように石の積み方も同じ場所で異なる2つの積み方がなされていることもとても重要な史跡だと思います。詳しく見ていくと海にも面していますし、三山が統一されるまでのことを示す重要な史跡だと思います。このような史跡の登録を進めていくのであれば近くの子ども達に発掘の状況を見てもらい、城跡から出てきた様々な物をできるだけ早く報告書にまとめてほしいと思います。また、これまでの報告書を見ていると文字の羅列と写真でわかりにくいという印象を持っていますが、子ども達が興味を持てるようなわかりやすい内容の報告書も作って子ども達の関心を高めるような取組も併せて行うと良いのではないかと感じます。沖縄にはこのような城の史跡が多くあり、価値があるかどうかの評価は難しいと思いますが、この城跡はとても貴重なものだと感じますので、何らかの形で地域にもっと還元してほしいと思います。
- 文化財課長 報告書は発掘した調査の内容を詳細にまとめるものであり、それが基になって指定等に関わってきますので、学術的にまとめられたものとなっております。北谷城跡は国指定になりますが、指定の要件としてその後の活用計画を定めることになっておりますので、北谷町が検討している活用計画とも連携して進めていきたいと思っております。
- 比嘉委員 現在既存の指定が44筆で今回の追加が6筆ということでまだまだ保護されていない部分が残っていると思いますが、今後の見通しはどのようになっていますでしょうか。
- 文化財課長 残り2割が里道となっており、沖縄総合事務局の管轄で譲渡しない方針となっているようです。これについては北谷町も国に働きかけて、どのようにすれば譲渡可能かという話し合いを行っているようですが、現状としては厳しいと考えております。
- 藏根委員 先ほどと一緒に歴史教育や学校教育に関連することがとても大きく、私の経験を言うと越来グスクのことを地域がとても誇りに思っているということがあります。戦後コザ十字路の地面によく見られたということを通理解して、越来小学校には沖縄市資料室とリンクした歴史資料館があり、あらためて学校教育の中にわかりやすく位置づけてアピールしていくと豊かな心に繋がっていくと思います。

(5) その他

特になし

(6) 閉会

半嶺教育長が閉会を宣言した。